熊谷市
記者クラブ取材情報

令和6年10月23日発表
担当課:熊谷市教育委員会
社会教育課

タイトル

令和6年度　熊谷市文化功労者・教育関係職員表彰式

1．日時　令和６年１１月３日（日・祝日）　１０時００分　開式

2．場所　熊谷市立大里生涯学習センター　あすねっと

3．事業概要

＜事業内容＞
【式典】
・文化功労者３名　宇野　悦朗　氏（体育　７５歳）
　齋藤　秀子　氏（学校教育　７６歳）
　花輪　滋實　氏（文化　７７歳）

・教育関係職員表彰者１７名（学校教職員１３名、学校医４名）

＜目的＞
・文化功労者：教育・学術・文化・体育の振興について特に功績が顕著である方を表彰する。
・教育関係職員表彰：熊谷市内在勤１５年以上で勤務成績が良好である者を表彰する。

＜影響・効果＞
文化芸術及び教育活動を行っている方々の励みになり、各分野の振興に資することになる。

4．特徴やPRポイント

5．その他

＜主催者＞
熊谷市教育委員会
代表者　野原　晃
＜連絡先＞
０４８－５２４－１１１１　内線（３９４）

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）　※市HPの掲載（ 有 ・ 無 ）

担当者　熊谷市教育委員会社会教育課　後上
連絡先　ＴＥＬ　０４８－５２４－１１１１内線（３９４）shakaikyoiku@city.kumagaya.lg.jp

熊谷市文化功労者

宇野悦朗（うのよしあき）　氏　（７５歳）

熊谷市本石

氏は、昭和５６年から熊谷市バレーボール連盟の役員として活躍し、平成１３年からは理事長として１０年を超えて連盟を支え、現在は副会長として企画運営に携わっておられます。この間、連盟組織の改革に努め、加盟チームが市のスポーツイベントにボランティアとして参加し貢献できるシステムを構築したほか、チーム数を大きく増やすなど、バレーボールの振興に力を発揮しました。

また、熊谷市のスポーツ熱中都市宣言にある『スポーツを積極的に「応援」し、感動を味わう。』を実践し、バレーボールＶリーグの大会開催に尽力するなど、市民に感動を味わう機会を提供しました。

さらに、公益財団法人熊谷市スポーツ協会常務理事広報専門委員長として、協会広報誌「スポーツ熊谷」の発刊に寄与されました。特に動きのある写真の掲載に力を入れ、市民に親しまれる紙面づくりに取り組み、スポーツへの関心を高めようと努められました。

こうした長年の功績により、平成２７年には埼玉県体育功労賞、平成２８年には埼玉県シラコバト賞を受賞されています。

また、地元自治会長として、地域住民のために力を尽すとともに、熊谷市総合振興計画審議会委員として、スポーツを通じた街づくりに貢献されました。

このように、スポーツの振興、発展に尽力し、市民ニーズに的確に対応して、健康や生きがい、豊かさを実感できる社会の構築に寄与された功績は誠に顕著であります。

熊谷市文化功労者

齋藤秀子（さいとうひでこ）　氏　（７６歳）

熊谷市拾六間

氏は、４１年の長きにわたり、小・中学校・高等学校などの学校歯科医として、児童生徒の歯と口の健康保持・増進を図るとともに、熊谷市学校保健会の理事として、会の発展に大きく貢献されました。平成１３年には、熊谷市歯科医師会の副会長に就任され、卓越した学識経験を発揮し、地域歯科医療の整備と充実に寄与されました。

また、この間、熊谷市緊急医療協議会委員、大里広域市町村圏組合介護認定審査会委員など多くの公職も歴任されました。熊谷市休日・夜間急患診療所の協力医として円滑な運営に努め、本市の救急体制を向上させるとともに、長きにわたり、熊谷市母子保健事業の乳幼児健診に執務し母親学級講師を務めるなど、乳幼児の保健推進のため現在まで尽力されています。

さらには、埼玉県歯科医師会、日本学校歯科医会などの要職を歴任され、『今後の健康診断の在り方等に関する検討会』（文部科学省）、『児童・生徒の健康診断マニュアル検討会』（日本学校保健会）、小学生の歯と口の健康づくりのための教材『わたしの歯っぴーファイル』（埼玉県歯科医師会学校歯科部編集）の作成などに尽力し、学校保健の普及・振興に努め、児童生徒の健全な発育に寄与されました。数々の功績が認められ、平成２０年には文部科学大臣表彰を受賞、令和元年には旭日双光章を授与されています。

このように歯科医療と公衆衛生の向上、社会福祉の増進に寄与された功績は誠に顕著であります。

熊谷市文化功労者

花輪滋實（はなわしげみ）　氏　（７７歳）

熊谷市中奈良

氏は、昭和４１年家業の木工挽物業に従事し、その後、鎌倉で漆の修業を積んだ後、昭和５７年に市内中奈良に花輪ろくろ工房を開設しました。また、平成５年には県北美術家協会、平成７年には熊谷市美術家協会と両方の工芸部の創立に尽力し、その審査員を務めるなど、長年にわたり埼玉県と本市の美術、特に工芸界をけん引してきました。

日頃、工房での製作活動に励みながら、自己の感性・技術の向上を目指して鍛錬し、伝統工芸新作展、日本伝統工芸展、埼玉県展など、多くの公募展に出品を重ね、主要賞を受賞するなど高い評価を得てきました。

また、平成１０年には日本工芸会正会員に推挙され、表具の一部材である軸首の製作を本格的に始動しました。以後、氏が製作した木製軸首は、国指定重要文化財の掛軸や巻物の修理に用いられるなど、美術工芸品の保存上、欠かせない部位を供給し、文化財保存修復分野でも高い技術を発揮しています。

そして、令和３年には、国選定保存技術「表具用木製軸首製作」の保持者に認定され、創作活動をはじめ、文化財の修復や伝統技術の保存継承、後継者の育成など幅広い活動に取り組んでおられ、令和５年にはその功績が認められ、旭日双光章を授与されています。

このように、本市の芸術文化の振興、発展に尽力するとともに、高度な専門技術と知識で、我が国の文化財保護に大きく寄与された功績は誠に顕著であります。